

## 教育長や校長が本音「切磋琢磨」は「競争に勝て」

8月22日、全教滋賀の田中委員長と高教組の黄之瀬書記次長は、湖南省と甲賀市の教育長や校長を訪問。「意見を聴く会」を特集した「滋高教情報」などを渡して、統廃合の問題点と進行状況を説明し、話し合いに入りました。

### もらった資料で説明する 県立中学の総括を

湖南省の奥村教育長は率直に語りました。

石部高校は、調整を重ねて最終的に定員が埋まる。卒業していく子は大変いい子たち。生徒も親御さんも満足してくれている。末松教育長にお会いして話もしている。谷畑市長も石部高を残してくれるよう要望している。石部は福祉施設も多く、『福祉教育特区』を申請している。普通科単独ではなく、福祉科や高等養護学校併設など違った形もふくめて残すよう要望している。

県立中高一貫校ができてからずいぶんたつ。すでに卒業生も出ている。県に県立中学の総括をするよう強く要望している。県から見れば中高一貫の3中学にいい子を集めて良いかもしれないが、地域の教育をどうしてくれるのか。地域の教育をつぶしている。

湖南省では9月24日に教育委員会が開かれる。今日もらった統廃合の資料を渡して説明する。



### 現場では正直まだ知らない

甲賀市のある中学校の校長は語ります。

8月7日大津(県民の意見を聴く会)に行った。中学校長には説明会の案内が来たので、何も知らずに申し込んで出席した。9月に、校長会では資料も使って説明もあり、話題になってきたが、現場では正直まだ知らない。資料は読ませてもらって勉強します。



### きめ細かい対応が大事な時代だ

別の中学の校長も語ります。

県が、甲賀の校長会理事会で説明したが、意見を言う時間は少なかった。「これで中学校長に説明し意見も聴かせてもらった、と思ってもらっては困る」と申し上げた。水口でもこれから先しばらく人口は減らないので現状から減らす必要はない。地域の学校を守ってほしい。

小中が35人学級に動き出し、きめ細かい対応が大事だと皆が認めている時代に、大規模の方が切磋琢磨できて良いと言うなどは矛盾だ。切磋琢磨とは要するに競争に勝てと言うこと。ある校長は「これはおかしいと、県に質問したいことを考えていたら、全教から送ってきた組合の資料に全部書いてあった。全く同感だ」と言っていた。

**高校統廃合はストップせよ**  
速報 第18号 2010/09/28 発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)